



# 自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

## 十五歳の決意

山田 順弘

「将来、自衛隊員になりたい」という息子が自身で調べて私に話したのが「陸上自衛隊高等工科学校」でした。受験するにあたり進学校レベルの学力が必要なため学力が伴わない息子が高等工科学校を受験したい旨を担任に相談すると苦笑いされるほどでした。

推薦試験は中学校が二の足を踏む状況で息子も交え学校長や学年主任へ高等工科学校に対する熱い思いを伝えどうにか学校推薦を頂きました。

推薦試験の結果は「不合格」やっぱりという思いはありました。相当悔しかったのでしよう。その日は一晩中泣いていました。「もう高等工科学校には行かない。一般試験は受けない！」一時は夢を諦めかけていましたが思い直し一般試験を受験し1次試験を合格しました。2次は身体検査に不安があり、体重上限を8キロもオーバーし食事制限やプールに毎日通い必死に体重を落としました。息子の本当に行きたいという強い意志がわかりました。そんな息子の姿勢に私も一緒に付き合ひ、私自身も痩せていました。2次試験の面接では、面接官に自分がどれだけ高等工科学校に行きたいのか、将来どのような自衛官になるかなど、熱い思いを伝える事ができたそうです。

運命の試験結果の日「合格」という知らせに息子と抱き合せて喜び合いました。

4月1日に入学式までの一週間で厳しく叩き込まれただろう制服姿の息子を見て、胸に込み上げてくるものがありました。

ゴールデンウィーク、初めて帰省した息子の大人びた姿に驚きました。

帰省最終日、駅のホームまで家族で見送った際「じゃあ、行くね！」と笑って列車に乗り込む息子はこちらを振り返る事もなく車内に消えて行きました。15歳で決意した息子に次に会える時はどれほど成長した姿になっているか楽しみに列車を見送りました。



## 一般幹部候補生の道を歩んだ我が息子

群馬地方協力本部高崎地域事務所

空曹長 横澤 達也

この春、息子が航空自衛隊の一般幹部候補生として航空自衛隊幹部候補生学校へ入校した。

息子が、自衛官になるという選択をしたのはいつ頃だったのだろうか。

航空自衛官、そして、群馬地方協力本部の広報官である私、は昨年の令和5年4月に都内の寮に住み、当時就職活動中であつた、大学四年生の息子から突然「お試しで自衛隊の受験を今考えている。」旨の一報を受けた。

その一報を受け、息子が中学生や高校生時代に「自衛隊は転勤が多いので絶対に入りたくない」と私と妻によく言っていたことを思い出し、お互いに今回は、本当にただのお試し受験だろうと当時は確信していた。

息子は令和5年度第一回目の一般幹部候補生（航空要員）を受験した結果、最終合格まですることができ、父として息子がどのような選択をするのか見守っていた。

息子は、その後、群馬地方協力本部が、企画した様々なイベントや航空自衛隊が企画したフォロイイベント等に参加した結果、驚くべきことに自衛官になる選択をしたのである。父として自分の背中を見て息子が、同じ道を歩む決心をしてくれたのかも知れないと思うと誇らしくも嬉しくも感じた。

令和6年4月2日、奈良県奈良市にある航空自衛隊幹部候補生学校にて入校式が挙行され、担当広報官及び保護者として私も制服を着用し参列した。

私が高校卒業後18歳で航空自衛隊に入隊した後、22年の歳月を経て辿り着いた。空曹長。という階級に先月3月に22歳の誕生日を迎えたばかりの我が息子が、その階級章を付けた制服を着用している姿を目の前にして、熱く込み上げてくる物を感じた春の日であつた。

息子よ、未来の日本を担う指揮官として日々成長してくれることを心から祈っている。



入校式の様子



妻、娘、義母とも記念撮影



右は息子、左も担当した学生（群馬県で2名入校）